田布施工だより

総務部
発行

今回はインターンシップ特集です！

インターンシップとは、夏休み等を利用して企業に行って現場実習を体験するものです。高校生にとって産業や職業現場などを知ることは、将来の生き方や進路を考えたり、仕事とはどういうものかを考察する上で有意義なことです。今回インターンシップに参加した生徒全員が感想を提出していますので、彼らが何を得てきたのか注目してみましょう。

㈱朝日製作所

機械科二年

僕は一週間がこんなに短く感じたことは今までなかった。一日目は緊張のしっぱなしだった。初めて見る型の機械や職場という慣れない環境の中で学科や実習を受けるのが大変だった。二日目、この日から本格的な実習が始まった。二日目の内容は、マシニングセンターを使ってアルミの箱を作った。マシニングセンターのプログラミングを作るのが難しくてとても時間がかかってしまった。三日目は、朝から実習があったのでとっても疲れた。午前中にレーザー加工機などの実習があって、午後からNC旋盤を使わせてもらった。NCになるとプログラムを作らなければならないので大変だった。四日目は午前中に溶接とプレス加工をさしてもらった。溶接では学校にはない溶接機を使わせてもらった。一番簡単なやつだと聞いてやってみるとなかなかうまくいかなくてかなり練習させてもらった。午後からは、NCフライスを使わせてもらった。五日目は、午前中に検査の実習をした。デジタルノギスやデジタルマイクロメーターとか見たこともないような測定器具を使わせてもらった。午後からは、加藤先輩と佐野先輩に色々な話をしてもらった。例えば、納期があるから納期までに製品を作らないといけないから納期がかぶったりするから大変だとか、三日3カ月三年という話とか他にも色々な話をしてくれました。今回のインターンシップに参加してとてもよかったと思う。学校ではできない色々な体験をさせてもらって色々なことを学ぶことができました。ありがとうございました。

㈱大畠製作所

電子科二年

僕は五日間のインターンシップでいろいろなことを学びました。基本的なことから作業をスムーズに進めるコツなどを教えてもらいました。また、学校では使ったことのない道具、機械の使用方法も学ぶことができました。この大畠製作所のインターンシップに参加して一番大変だったのが朝早く起きなければいけなかったことです。いつも学校に行くときは朝の七時四十分頃に起きて家を八時頃に出れば余裕があるぐらいの時間で学校に着くことができるのですがインターンシップでは朝七時五十分に体操が始まるので遅くとも四十分頃にきていないといけなかったのでいつもより一時間早く起きなければいけなかったことが大変でした。作業では、カッティングユニットなどの組み立てをしました。この組み立ての作業でまず初めに思ったことは組み立てる前に見せてもらった設計図が全然わからなかったけど少しずつ教えてもらいながら少しは理解することができました。このインターンシップに参加していろいろな体験をすることができました。このインターンシップで学んだことや将来のことに生かしていきたいと思います。

電子科二年

今回インターンシップに参加してみて、自分が想像していたのと違っていたの驚きました。まず始めに驚いたのは、自分の作業が終わったらそれで終わるじゃなくて、終わったら他の人の作業を手伝っているところでした。自分の作業さえ終わればいいという考えを改め考え直しました。自分の作業が終わっても、組み立てでは一個の部分ができていなければ完成しないし、期限内にできなければ皆の責任になってしまいます。それに誰か一人でも休めば、そこの作業が遅れてしまい、皆に迷惑をかけてしまいます。次に驚いたのは、作業が流れ作業になっており、自分で全部組み立てるのかと思っていたら、一個の部品ができたら次という感じで組み立てはチームワークが大切だということに思いました。さらに、設計図は学校で見たのや習ったのを全く違うような感じがして、一枚の紙にびっしりと図面が書いてあって、どれが部品の線か、どれが寸法なのかぱっと見たらよくわからなくて、企業が描く設計図はすごいと思いました。僕はこのインターンシップに参加して本当によかったと思います。これに参加してなければ自分の考えや行動が全く違っている事に気づき、また将来のことを考える良い体験になりました。

㈱光ステンレステクノ

機械科二年

今回インターンシップに参加した理由は就職するのか、進学するのかを悩んでいたのでいい機会だったので参加してみました。実際に参加して、企業は予想以上に大変でした。光ステンレステクノで現場実習を体験してみて感じたことはお客様を幸せにするために物の品質や安全を考えて作っていました。今まで見たことがない機械がたくさんありました。インターンシップに参加して将来のために役に立つ何かを見つけることができ貴重な体験をすることができました。

電子科二年

今回僕はインターンシップで光ステンレステクノに行きました。工場見学では色々な機械や仕事を見学しました。例えば電子顕微鏡や自動引張試験機など見たことのない機械を間近で見ることができてとてもうれしかったです。座学では「コミュニケーション」や「安全」について学びました。大変勉強になりました。特に「コミュニケーション」は日常生活でもよく使うので、とても大切だと思いました。僕は「コミュニケーション」はどれない方だと思っています。それから、作業や仕事場の雰囲気がどのような感じかよくわかりました。やはり、テレビや本で機械などを見るより実際にみる方が感動しました。従業員の人たちも優しく接してくれてとてもよかったです。挨拶も返してくれてこんな社会人にならないといけないと思いました。挨拶ができて、コミュニケーションがとれて、仕事ができる人に僕はなりたいと思います。

新日鐵住金ステンレス㈱

機械科二年

今まで何度か工場見学とかで、新日鐵に来たことはあったけど、今回のような就業体験は初めてでした。学校で、「他校の生徒も来る」と聞いていて、初日はとても緊張していました。初日や二日目とかは挨拶の声もすごく小さくて、ＯＢの人との交流会でも全然質問できなかったし、答えるときの声もはっきりせず、何を言っているのかわからないような感じでした。講師の皆さんも、声の大きさは大事といっていたので、積極的に大きな声ではっきりと挨拶や返事をすることを心がけました。なので、三日目以降は、声も大きくなっていったし、朝出勤してきて出会った人にも大きい声で挨拶をするようになりました。五日目は、初日と比べものにならないくらい大きな声で、挨拶をしたり返事ができました。これくらいの大きさの声で挨拶や返事をインターンシップの間だけではなく、これから毎朝起きたときや、学校に行ってからも、続けたいと思います。初日は他校の三人とあまり話もできなかったけど、四日目、五日目は積極的に大きな声ではっきりと挨拶や返事をすることができました。

神和工業㈱

機械科二年

僕はこのインターンシップで技術面で何も感じなかったといったら嘘になるけど、それよりも別の事がに強く残りました。それは、社員の安全教育をすごくしっかりとしているという事と、仕事というのは思うようにしんどいという事です。僕は安全についての始めの考えは、自分の事なんだから別にいいだろうし、もしもケガをしたら、そのときに改善すればいいという感じでした。でも、その安全教育の内容を聞くと、「自分がケガをすることで、品物の部品ができなくなり、そのせいで品物が作れなくなって、期限に間に合わなくて会社自身に迷惑がかかる」こういう重工業の場では、軽いケガではすまない事があるようにと、自分の事だけではすまないという内容がいくつも出てきました。この内容を聞いて、自分には、これから社会に出るには甘すぎると考えて、自覚が足りなさすぎると思いました。僕はこの五日間の中で、だいたい一日平均五～六時間の実習を体験しました。自分の中で、体力的には全然しんどくなかったのですが、毎日慣れてきてもくるようになりますが、精神的にすごくしんどかったです。でも、自分達がしていた事は、ただの「体験」で本当の「仕事」では無い訳だし、本当の仕事とは、もっと肉体的にも精神的にもしんどいものなんだろうと思いました。この仕事の中で楽しく仕事ができるようになるために、残りの半分の学校生活の中で、肉体、精神ともに、強くしていきたいと思います。

トヨタカローラ山口㈱ 柳井店

機械科二年

今回インターンシップを体験してみていろいろな体験ができてよかったと思います。一日目は〝タイヤ交換〟をさせてもらいました。タイヤ交換は僕の思っていたのとは違って難しかったけどおもしろかったです。二日目は〝ワックスがけ〟をさせてもらいました。大変だったけどこれは、これから役に立つことなのでよかったです。三日目はこれまでで一番大変で働く大変さがわかりました。四日目は〝営業〟をやらせてもらいました。僕は四日目の作業がおもしろかったです。四日間実習した中で一番印象に残ったのは朝礼当番の人が指名した人が五分ぐらい昨日あったことや自分のことを話す時間でよく自分の意見をすぐにまとめて話すことができるなと思いました。会社に入ったらそういう力も必要だと感じました。今回のトヨタカローラ柳井店で体験したことを今後の学校生活、部活、進路に生かせればと思います。インターンシップをやってみてよかったと思いました。

中国電力㈱ 柳井発電所

電子科二年

インターンシップで感じたことは、まず朝来るのが早いということです。八時五十分までに来ればいいのにほとんどの人がそれより十分二十分くらい早く出勤して来られていました。社会に出たらそれが当たり前なんだと思うので、今後は自分も早めに行動しようと思いました。現場は暑くて広かったです。移動に時間がかかって大変だったけど毎日パトロールで点検して回らないといけないので、現場の仕事は体力が必要だと思いました。柳井発電所はほとんどコンピュータ制御で、実際働いている人は少なかったです。中央制御室という所のスイッチを動かすだけで、現場の機械を動かせたり止まらせたりできるので、点検や計測をする人が必要ないんだと思いました。だから、作業をやらせていただいたり大変御迷惑をおかけしました。今後に生かしていきたいです。

電子科二年

五日間の柳井発電所でのインターンシップを終えて勉強になったことは、当初インターンシップに行く前は発電所なのだからほとんどの人が発電に関わる仕事をしているのだろうと思っていましたけど、実際にインターンシップで行ってみると結構違っていました。発電に関わる仕事以外にも機器の電気関係の点検や、機械関係の点検、設備の異常の確認や設備のメンテナンス等、発電業務以外にも多くの仕事があることを知りました。実際には、発電をするのが仕事だけどそれを支えるために他の多くの仕事があるということを知ることができとても勉強になったと思います。その他、発電をするために必要な発電機やガスタービン、LNGやLNGタンクの仕組みや送電関係の知識、コンバインドサイクル発電の仕組みについて勉強しました。おかげで、工場見学で勉強したよりもかなりコンバインドサイクルについての仕組みや長所などについて理解が深まったと思います。職場での生活についても、職場の雰囲気を知ることができたのが一番インターンシップでよかったと思います。社員の方々も親切で会社に慣れるのにそれほど時間はかかりませんでした。今回のインターンシップでは実際にパトロールや機能試験、書類等の作成を体験して、実際の仕事での厳しい点、難しい点なども学ぶことができて五日間という期間でとても有意義な五日間になったと思います。今回のインターンシップで学んだことはこれから進路選択、就職の貴重な判断材料になったと思います。来年はこの体験を生かして、よりよい進路を選択していけるよう努力していきたいと思います。

西日本ステンレス鋼線㈱

電子科二年

今回は、インターンシップをさせていただいて、色々なことを学ばさせていただきました。仕事では失敗をしてはいけないし、注意してやらないと大怪我をしてしまう恐れがあるので、真剣にやらないといけないということがわかりました。仕事というのは大変なんだなと実感しました。この作業で、ステンレスの鋼線を手に0kg単位でまとめるところを見ていると結構簡単に見えたのですが、実際にやってみるとうまくいかず困難なものでした。しかし、何回か教えてもらうにつれ少しずつ上手くなり成功したときの達成感はとてもすばらしいものだと思います。一日間のインターンシップでしたが、僕はここで学んだことを職業選択に役立てていきたいと思います。そして、将来自分の満足のいく職業につけるよう努力していきたいです。

中国電力㈱ 柳井発電所

電子科二年

インターンシップで感じたことは、まず朝来るのが早いということです。八時五十分までに来ればいいのにほとんどの人がそれより十分二十分くらい早く出勤して来られていました。社会に出たらそれが当たり前なんだと思うので、今後は自分も早めに行動しようと思いました。現場は暑くて広かったです。移動に時間がかかって大変だったけど毎日パトロールで点検して回らないといけないので、現場の仕事は体力が必要だと思いました。柳井発電所はほとんどコンピュータ制御で、実際働いている人は少なかったです。中央制御室という所のスイッチを動かすだけで、現場の機械を動かせたり止まらせたりできるので、点検や計測をする人が必要ないんだと思いました。だから、作業をやらせていただいたり大変御迷惑をおかけしました。今後に生かしていきたいです。

電子科二年　正本雅一

私は西日本ステンレス鋼線株式会社さんに、インターンシップをさせていただきました。仕事では失敗をしてはいけないし、注意してやらないと大怪我をしてしまう恐れがあるので、真剣にやらないといけないということがわかりました。仕事というのは大変なんだなと実感しました。この作業で、ステンレスの鋼線を手に0kg単位でまとめるところを見ていると結構簡単に見えたのですが、実際にやってみるとうまくいかず困難なものでした。しかし、何回か教えてもらうにつれ少しずつ上手くなり成功したときの達成感はとてもすばらしいものだと思います。一日間のインターンシップでしたが、僕はここで学んだことを職業選択に役立てていきたいと思います。そして、将来自分の満足のいく職業につけるよう努力していきたいです。

西日本ステンレス鋼線㈱

電子科二年

今回は、インターンシップをさせていただきました。僕はこのインターンシップを通して職場の人がどのような気持ちで活動しているか、またどのような雰囲気で働いているかを見学するために参加しました。まず、活動内容を説明してもらいました。職場の人はわざわざインターンシップという時間を作ってくれているにもかかわらず、やさしく、そしていやな顔をひとつせずわかりやすい説明をしてくれました。そのおかげで自分もあまり緊張することもなく笑顔で話に参加することができました。次に、工場見学ですがそのときの工場内の暑さにいやになりました。自分は話を聞いているだけで汗がすごく出るのに職場の人は暑い中、働く精神力に敬服するばかりです。そのときの職場の人たちの生き生きとした顔と輝く汗はとてもすばらしいものだと実感しました。そして最後に梱包出荷作業を手伝わせていただきました。この作業で、ステンレスの鋼線を手に0kg単位でまとめるところを見ていると結構簡単に見えたのですが、実際にやってみるとうまくいかず困難なものでした。しかし、何回か教えてもらうにつれ少しずつ上手くなります。